

滋賀県ヨシ群落保全基本計画改定の検討状況について

1 趣旨

本計画は、ヨシ群落保全区域等において実施する、ヨシ群落の保全に関する事業等を効果的に推進するための計画であり、現計画で示されたヨシ群落の再生目標が令和2年度までとされていることから、近年の状況等を踏まえて、内容を見直すものです。

2 計画の位置づけ

本計画は、滋賀県琵琶湖のヨシ群落の保全に関する条例第9条に基づき策定される、ヨシ群落保全の方向性を示す計画です。あわせて、滋賀県環境総合計画を上位計画とし、環境施策の基本的方向性を取り込んだ、ヨシ群落保全に関する分野別計画と位置付けられます。

3 計画期間

令和3年度（2021年度）～令和12年度（2030年度）までの10年間とします。

4 主な改定内容

- ①ヨシ群落面積が回復する一方で、ヤナギ比率が増加するなどの現状、および平成30年度に改定された滋賀県環境総合計画の目指す「環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環」の考え方を踏まえ、ヨシ群落の保全について、造成による量的回復から、維持管理を通じた質的向上を重視する方向性としました。
- ②画一的なヨシ群落の理想像を改め、地域特性に応じた取組の視点や、取組における地域住民を重視するなど「地域」の概念を計画全体に導入しました。あわせて、地域を支える取組として、地域外からのボランティアなどとの協働や、ヨシだけでなく伐採したヤナギ等も活用するための技術開発など、取組内容を拡充しました。
- ③ヨシ群落保全取組が、SDGsの達成につながるとの考え方について記述を加えました。

詳細は資料2、3のとおりです。

5 スケジュール

令和2年度

- 6月 9日 県議会常任委員会報告（策定が予定されている計画等）
- 10月 12日 滋賀県ヨシ群落保全審議会開催（諮問）
- 1月 18日 滋賀県ヨシ群落保全審議会開催（素案）
- 3月 9日 県議会常任委員会報告（素案）
- 2～3月 関係市等へ意見照会

令和3年度（予定）

- 5月頃 県議会常任委員会報告（策定が予定されている計画等）
- 6月頃 滋賀県ヨシ群落保全審議会開催（答申案）
 - 県議会常任委員会報告（原案、県民政策コメントの実施）
- 7月～8月 県民政策コメントの実施
- 9月頃 県議会常任委員会報告（県民政策コメントの結果、計画案）
- 10月 策定・公表

ヨシ群落保全基本計画改定のポイント

ヨシ群落の現状

- ◆ ヨシ群落面積の回復
- ◆ ヤナギの面積比率が増加
- ◆ 湖辺の搅乱の減少等の環境の変化
- ◆ 侵略的外来水生植物の侵入
- ◆ 企業やボランティア、NPO等の保全活動への参画

社会情勢

- ◆ 自然環境の回復に加え、持続可能な循環共生型社会（生態系のみ着目だけでなく、地域資源としても着目）
- ◆ 琵琶湖の保全及び再生に関する法律
- ◆ SDGs（持続可能な開発目標）
- ◆ CO₂ネットゼロ

計画改定の視点

- ヨシ群落の現状と課題への対応
- 第五次滋賀県環境総合計画の考え方
「環境と経済・社会活動をつなぐ健全な循環」

これまでの課題

- 「ヨシ群落の質的な変化への対応」
 - …画一的な理想像を求めるヨシ群落保全の限界
- 「少子高齢化等による地域の関わりの縮小」
 - …行政主体の地域協議会の限界
- 「県のヨシ群落保全に関する事業量の縮小」
 - …全県的な維持管理事業の限界
- 「企業等のヨシ刈り意欲の高まりへの対応」
 - …始めにくい、定着しない
- 「ヨシやヤナギの活用が進まない」
 - …ヨシ刈り等の保全活動の行き詰まり

改定のポイント

- 量的回復(造成)から質的向上(維持管理)へ
- 地域を支えて持続的な取組へ
 - 地域の特性に応じた保全
 - 地域外の力を活かす
 - 地域資源としての循環利用
 - 保全活動の効果の可視化
- SDGsへの貢献